

# 共に汗流し、技磨く

バレエ部員 沿岸などの生徒と練習

水沢商高

水沢区の県立水沢商業高校女子バレエ部は4日までの3日間、東日本大震災で甚大な被害を受けた本県沿岸部を含む計5校の同部員を招き、合同合宿を水沢商体育館で開いている。3日は練習試合を繰り返して、それぞれのチームプレーに磨きを掛けた。約80人が熱のこもったプレー

を繰り広げ、一層の切磋琢磨を誓い合った。

沿岸部の生徒たちにも集中して練習できる環境を提供しようと、水沢商業が企画。生徒間の交流を深める狙いもある。

沿岸部から大船渡東、釜石商工の両校を招待し、前沢、北上翔

南一関第一も参加。2泊3日で実施し、沿岸2校は水沢商業の合宿所で寝泊まりしている。

3日は、体育館のコート一面を使い、ゲーム形式の実戦練習に励んだ。プレー中の生徒たちは真剣そのもの。チームメイト同士で声を掛け合い、時折満面の笑みでボールを追っていた。

釜石商工の部員17人のうち、5人は津波に

流されるなどして自宅を失った。3人は親類宅に身を寄せ、2人は避難所から学校に通っているという。

同校女子バレエ部員部顧問の千葉忍講師(31)は「呼んでいたとき感謝の気持ちでいっぱい。生徒たちの表情も普段より生き生きしている」と喜んだ。

大船渡東3年の新沼香奈部長(17)は「バレエは本当に楽しい。1勝でも多く積み重ねられるよう、全員バレーで頑張りたい」と今後の活躍を誓った。

水沢商業3年の上田優里香部長(17)は「ともにバレーボールに取り組む仲間同士。そんなみんなと一緒にプレーできる幸せを、あらためて感じた」と笑顔。顧問の中島誠郎教諭(46)は「ボランティア以外の被災地支援もあるはず。バレエボールを通して生徒たちに元気を取り戻してもらい、互いに高め合いたい」と願っていた。

スポーツを通じた被災地の子どものための交流は、これまでも胆江地区では数件実施されている。3日は、市立前沢中野球部も陸前高田市立第一中を招待し、前沢区内で交流試合を開催。懇親会も催し、交流を深めた。



熱のこもった練習試合を繰り返す合同合宿中の女子バレエ部員たち